



3月30日(土)、偕楽園グループ主催の『さくらまつり』が開催されました。日頃お世話になっている地域の方々にご利用者、また、そのご家族に楽しんでいただく目的でスタートしたこのお祭りも、早いもので12回目を迎えました。当日は、春の陽気に誘われて、たくさんの方々に会場にいただき、敷地内の桜の木もこの日に合わせたように一気に



さくらまつり

えんちゃん新聞

発行元
平成31年4月 発行
第38号
社会福祉法人 亀鶴会
偕楽園
特別養護老人ホーム偕楽園
〒874-0904
大分県別府市南荘園町25組
TEL: 0977-22-2515

新聞の名前は、施設で飼っているペットの名前です。

名前：えんちゃん
犬種：トイプードル
性別：男の子

●施設の特徴
4つのユニットで構成され、ユニットケアを行っています。

特養：29部屋(全室個室)
向日葵ユニット(10)
金木犀ユニット(10)
小梅ユニット(9)
ショートステイ：10部屋(個室)



小梅ユニット紹介

開花し、お客様を出迎えてくれました。会場の模擬店では、職員によるカレーや焼きそば、ポテトなどの販売、また、この日のためにご利用者の家族から提供していただいたり、職員から募った物品のバザーが行われ、開始前から品定めをされるお客様や掘り出し物を探すお客さままで賑わいました。会場奥のステージでは、子供太鼓や吹奏楽、獅子舞やひょうこ踊りなどの催しが行われ、駆けつけてくれた別府市のイメージキャラクター「ターベっぴょん」と一緒に会場を盛り上げてくれました。最後は、抽選会を行い、抽選番号が呼ばれる度に一喜一憂する姿が見られるなど、楽しい一日となりました。

はつもうで



1月25日(金)に希望者対象で、朝見神社へ初詣に行ってきました。気候もよく、ゆっくりと参拝することができました。おみくじを引かれたり、お守りや甘酒を購入されたり、みなさん初詣を楽しまれていました。「今年もお参りに来られてよかったです。初詣という風物詩に今年も参加できたことを、感慨深く思われているご利用者もいらっしゃいました。」
「今年も元気に過ごせますように」と同行した職員で、皆様の健康祈願をしてみました。今年もご利用者の皆様と様々な行事に取り組んでまいりたいと思います。

小梅ユニットでは、ご利用者が笑顔で1日を楽しく過ごして頂けるように、日常のサポートを行っています。入居者9名の皆様に、より質の高いチームケアを提供し、ご利用者と職員が笑顔で過ごす事を目標として、スタッフ一同、日々介護技術の向上に努めています。



日常生活の中でメリハリをつけるために、ユニット内で過ごして頂く際には、音楽を聞きながら、パズルや読書がされ過ごされています。晴天時には、テラスに出てシャボン玉や、日光浴をされるなど楽しそうに過ごされています。

2月26日にご利用者の82歳の誕生日会を行いました。お寿司が大好きで、ご本人から、「お寿司が食べたい!」との希望が聞かれていたので、昼食にお寿司を提供しました。「美味しい!今日は最高に良い一日だ。」と何度も言いながら召し上がり、とても満足されている様子でした。プレゼント贈呈では、「職員さんにお礼がしたい。ありがとうございます。」と何度もお礼の言葉を頂き、職員にとっても嬉しい1日となりました。

金木犀ユニット紹介

金木犀ユニットでは、日常生活の中で、ご利用者の皆様を楽しみを見つけたいいただける様、支援させていただいています。

最近では、ユニットのテラスから、満開の山桜と一緒に眺めたり穏やかに過ごしていらっしやいます。
普段の生活では、共同スペースで他のご利用者と一緒に塗り絵等の季節の作品作りに取り組みんだり、お部屋で趣味の時間を有意義に過ごされています。取り組みの中で、昔のことを思い出される方や新しい日課に挑戦される方もいらっしやいます。ご利用者ひとりひとりに合った穏やかな生活を基本にここでの生活が楽しいと思っていただけるように努めていきたいと思えます。



2月、3月で4名のご利用者が誕生日を迎えられました。出来る範囲でご本人のご希望に沿ったお祝いをさせていただきます。



「これからも皆様が健康に歳を重ねていける様、お手伝いをさせていただきます。」と大変喜ばれていました。

外部研修報告

●認知症介護実践リーダー研修

介護支援専門員 金田 勝

平成30年11月8日から平成31年2月21日にかけて、10日間の研修と研修期間中に施設実習を18日間行いました。ケアチームにおける指導的立場として、チーム員の知識・技術・態度を指導する能力及びチームリーダーとしてのチームマネジメント能力を習得することを目的とした研修です。

まず、認知症の専門的理解として、認知症の原因となる疾患別の容態、薬物療法、対応方法に関する最新かつ専門的な知識を理解して行く講義を受けました。実践リーダーとして指導して行くためには、自身が認知症をしっかりと理解しておくことがとても重要であると感じました。

その他には、実践リーダーとしての役割や認知症ケアにおけるチームアプローチの方法、権利擁護についてなど、様々な視点から学ぶことが出来ました。施設での実習を行うために、指導計画書を作成しました。実習対象者となる協力職員に対して、個人にあった指導計画書の作成、作成した計画を実施して、うまく指導できた点やできなかった点など、意識して取り組むことにより、振り返りができ、改善点が分かりやすく施設での良い実習が出来ました。

研修最終日は、施設での実習報告をグループワークで行いました。講師からの助言や他の参加者の取り組み、報告を聞き、意見を申し合つことで、自分にはない視点で取り組んでいる参加者の話を聞くことができ、大変学ぶことが多い研修となりました。



●死生観と緩和ケアを考える会

看護職員 田巻里美

2月9日(土)杵築市健康福祉センターで行われた研修会に参加しました。

「死生観を考える地域づくり」と題して、杵築市医療介護連携課、企画政策係の岡江晃児氏より講話がありました。杵築市では、エンディングノートの活用を行っており、団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、住まい、医療、介護、予防、生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築を実現している。エンディングノートの活用目的として、①もしもの時も周りの人が困らない ②身の周りの整理ができる ③「気づき」のきっかけになる ④生きる目標が見え元気になる。これらの観点からエンディングノートの活用をさらに推進していきたい。

次に「在宅医からみた死生観と緩和ケア 幸せな生き方・死に方」と題して、医療法人カーサミア在宅クリニック院長 山岡憲夫先生より、講義がありました。死生観とは、「死」に対する考え方で、①自分(家族)がどのように死に向き合つか ②その上でどのように生きていくか考える事。人間の死亡率は、100%であること、人間は必ずしも死を迎える存在であるが、死生観を持つ事は、個人の価値観、環境で異なり、正解はない。最期をどう生きたいか、迎えたいかを考えることは、今からの人生を前向きに生きるということにつながる。自分が納得できる生き方、死に方ができるかが問題である。

この研修を受けて、杵築市のエンディングノートの活用が広く浸透していることに驚きました。死生観をもつことの大切さ、日本人の宗教観からみた死の捉え方、在宅医療や緩和ケアの意義などを考えさせられました。医療、福祉に携わる人間として、これらの「死」に対する考えを自分なりに考え、一つの信念として持つことの重要性、また、施設において、高齢者がいかに自分らしく最期を迎えるか、迎えられるか、その現場の私たちがどのようにするか、しなければならぬかを一人一人が意識する事の大切さを考えさせられました。

●「どうすれば人が育つ職場作りができるか」

介護職員 大林由貴

12月15日(土)社会福祉介護研修センターで行われた研修会に参加しました。

リーダーシップとは、職務階級に連動する概念ではなく、全ての職員に対して必要なもので、上司主任、リーダー等は、全員がリーダーシップを発揮することが出来るように導くことが必要です。

- ①ビジョンの提示(理念)
- ②継続的な目標設定と実現による変革(イノベーション)の促進
- ③モチベーションの向上、強化
- ④構成メンバー(社員、職員)のエンパワメント実現
- ⑤チームワーク、連携強化



よりよい施設にするためには、リーダーシップが必要であり、それがなくして信頼と愛情は生まれません。また、職員のモチベーションが向上することで、認知症や精神疾患の既往があるご利用者も落ち着いてくる傾向が見られています。逆にモチベーションの下がった職員がいると、その職員が原因となり、他の職員のモチベーションまで低下し、その結果、「ご利用者が落ち着きを失うこと」に繋がりがありません。その様な場合は、職員のタイプに応じた指導が必要となります。例えば、自身のことを過大評価する職員に対してはロールプレイで指導を行い、過小評価する職員に対しては、小さなことから評価していくことが効果的です。また、小さな事の積み重ねが、結果的に大きな変化や重要な事に繋がっていくという考え方も視野に入れなければなりません。そして、すべての職員がリーダーシップを発揮できる組織が出来たときに初めて良い職場になったと言えます。今回の研修を受けて、「コミュニケーションの重要性や相手への心遣いによって、個人、ひいては職場全体のモチベーションが左右される事を学びました。ご利用者が満足する(サービスを提供できる)施設(組織)になるためには、自分自身も組織の一員としての自覚を持って、日々の業務を行う事が重要だと思いました。

●「褥瘡予防のための

ポジションング、シーティング」作業療法士 岡崎典子

ポジションングとは何か? 聞き慣れない言葉ですが、仰向けでしばらく寝てみて下さい。いかがですか。段々体が痛くなり、動かしたくなりますよね。健康な方なら自然と寝返りをし、身体と敷布団の間に生じる圧力を分散させています。しかし自由に身体を動かさない方ではどうでしょう。ずっと同一姿勢で寝ることは苦痛となり、また骨が突出したやせている方などは「床ずれ」が出来てしまいます。そうならない為に、安楽な体位でクッションやタオル、ベッドマットレス等で身体を支え、圧力を分散させることをポジションングといいます。実際に私自身も、除圧マットレス(圧抜きしてくれるマット)に横になり、膝下に大きいクッションを敷き、肩甲骨から大腿部に長いクッション(スネーククッション)をしたら、極楽で夢見心地でした。利用者のみなさんの体への負担を軽減し、快適に過ごしていただけるように個々に合ったポジションングの必要性を再認識しました。

内部研修報告

月に1回、グループホーム、居宅、訪問看護と合同で、職場内研修を行っています。

●1月のテーマ

『認知症アンケート』について

介護支援専門員 金田 勝

●2月のテーマ

『死生観』について

施設長 井上俊男

死(生)に対する考え方

●3月のテーマ

『虐待・身体拘束の理解と排除に向けて』

施設長 井上俊男

何が身体拘束に該当するのかを理解し、身体拘束による弊害を知る

えんちゃん日記

偕楽園のアイドル犬 えんちゃんですが、実は、二代目。初代えんちゃんは、フラッフィー(毛長)コーギーの女の子でした。高齢の飼い主さんから譲り受けて、園では、中庭を自由に歩き回り、今のえんちゃん同様、みんな可愛がられるわんちゃんでした。初代えんちゃんが虹の橋を渡って、早いもので3年になります。えんちゃんがいなくなった中庭を見て寂しく思っていたところ、縁あって私達のところへ、今のえんちゃんです。縁あって私達のところへ



初代えんちゃん



やってきました。二代目えんちゃん。慌ただしい日々の中、沢山の癒しをもらっています。

職員の異動

平野祐一

介護職員として、グループホームで4年半、勤務してきました。4月より、特養に異動となりました。一日でも早く、皆さんの力になれる様、頑張りますので、宜しくお願いします。



趣味 バスケット
休日の過ごし方 子供と遊ぶ

土田忠志

こちらの施設で、1年間、介護業務に携わらせていただきました。4月からは生活相談員として、微力ながら皆様の為に頑張りたいと思います。宜しくお願い致します。



趣味 DVD 観賞
休日の過ごし方 家族と買物

宜しくお願い致します

